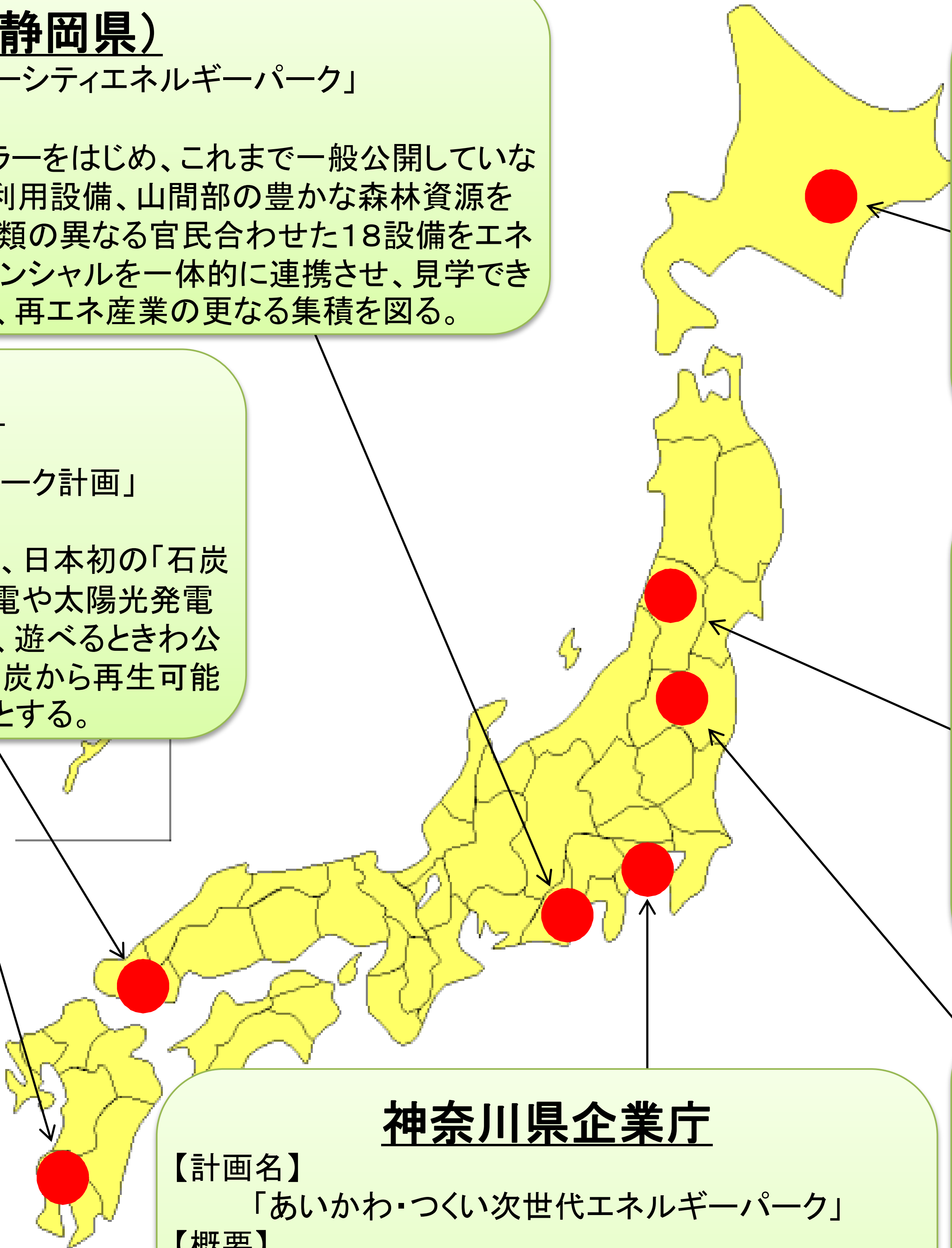
平成２４年度「次世代エネルギーパーク」計画の認定７案件

別紙



浜松市（静岡県）

【計画名】　「浜松市次世代ダイバーシティエネルギーパーク」

【概要】

静岡県内初の公有地によるメガソーラーをはじめ、これまで一般公開していなかった企業等の太陽光発電や太陽熱利用設備、山間部の豊かな森林資源を活かしたバイオマス設備など規模や種類の異なる官民合わせた18設備をエネパ認定。浜松の持つ多様な再エネポテンシャルを一体的に連携させ、見学できるような工夫を凝らして発信することで、再エネ産業の更なる集積を図る。

宇部市（山口県）

【計画名】

「ときわ公園次世代エネルギーパーク計画」

【概要】

「日本の都市公園100選」にも選定され、日本初の「石炭記念館」があるときわ公園内に、風力発電や太陽光発電設備などを整備。目で見て触れて、学び、遊べるときわ公園の徹底したエコパーク化を推進し、「石炭から再生可能エネルギーへ」再エネ観光・教育の拠点とする。

いちき串木野市（鹿児島県）

【計画名】

「いちき串木野次世代エネルギーパーク」

【概要】

焼酎・さつま揚げなど食の街を支えてきた西薩中核工業団地の企業と行政が連携し、太陽光、風力発電等の整備を通じて環境負荷日本最小の工業団地を目指す。さらに、地域の食文化と次世代エネルギーの融合を体験できるエコツアーなどを組み合わせることで、同団地を地域文化発信型の新たなタイプのエネパとし、いちき串木野における将来のスマコミ展開の軸に育てる。

神奈川県企業庁

【計画名】

「あいかわ・つくい次世代エネルギーパーク」

【概要】

山間部の豊富な水資源を活かした水力発電設備に加え、新たに神奈川県営のメガソーラー「愛川太陽光発電所」を整備。神奈川の豊かな水と太陽の恵みを体験できるエネパゾーンを設け、再エネを通じて神奈川の自然を広く知ってもらう機会を広げる。

足寄町（北海道）

【計画名】

「足寄町次世代エネルギーパーク」

【概要】

豊かな森林を利用したバイオマス熱利用設備など町内の再エネ施設をネットワーク化し、5つのモデルコースを設定。年間11万人が利用する道の駅「あしょろ銀河ホール21」とも連携し、再エネ・観光・教育分野での足寄町の魅力発信強化を図る。

庄内町（山形県）

【計画名】

「庄内町次世代エネルギーパーク」

【概要】

全国に先駆け昭和の時代から風力発電に取り組んできた同町の伝統を基礎に、雪氷冷熱やバイオマス、さらには「節電所」といったユニークな取組を交えたエネルギーの地産地消、「庄内町モデル」を形成。その各種取組をエネパ認定し、全国に発信する。

福島県

【計画名】

「福島県次世代エネルギーパーク計画」

【概要】

風力、水力、地熱など県内にある多数の大型再エネ発電設備を活かし、観光スポットも含めたエネパツアーを実現。再エネを身近に体験する機会を創造するとともに、再エネの先駆けの地を目指す本県の姿を、エネパ計画を活用して全国に発信する。

次世代エネルギーパークとは

- 次世代エネルギーパーク（以下、エネパと記載。）は、自治体が企業等と連携し、エネルギーに関する新たな取組を見学、体験できるような施設整備を行う取組（大きく以下二つの取組パターンがある）。
  - ① 再生可能エネルギー設備や体験施設等を一か所にまとめて中核拠点を形成したもの　（拠点集中型）
  - ② 地域内に点在する再生可能エネルギー設備を結びつけ、地域全体をエネパとする形態（広域連携型）
- 経済産業省では、平成１９年度から、こうした施設整備及びその運営計画の認定を行い、その普及広報・利用促進に取り組んでいる。

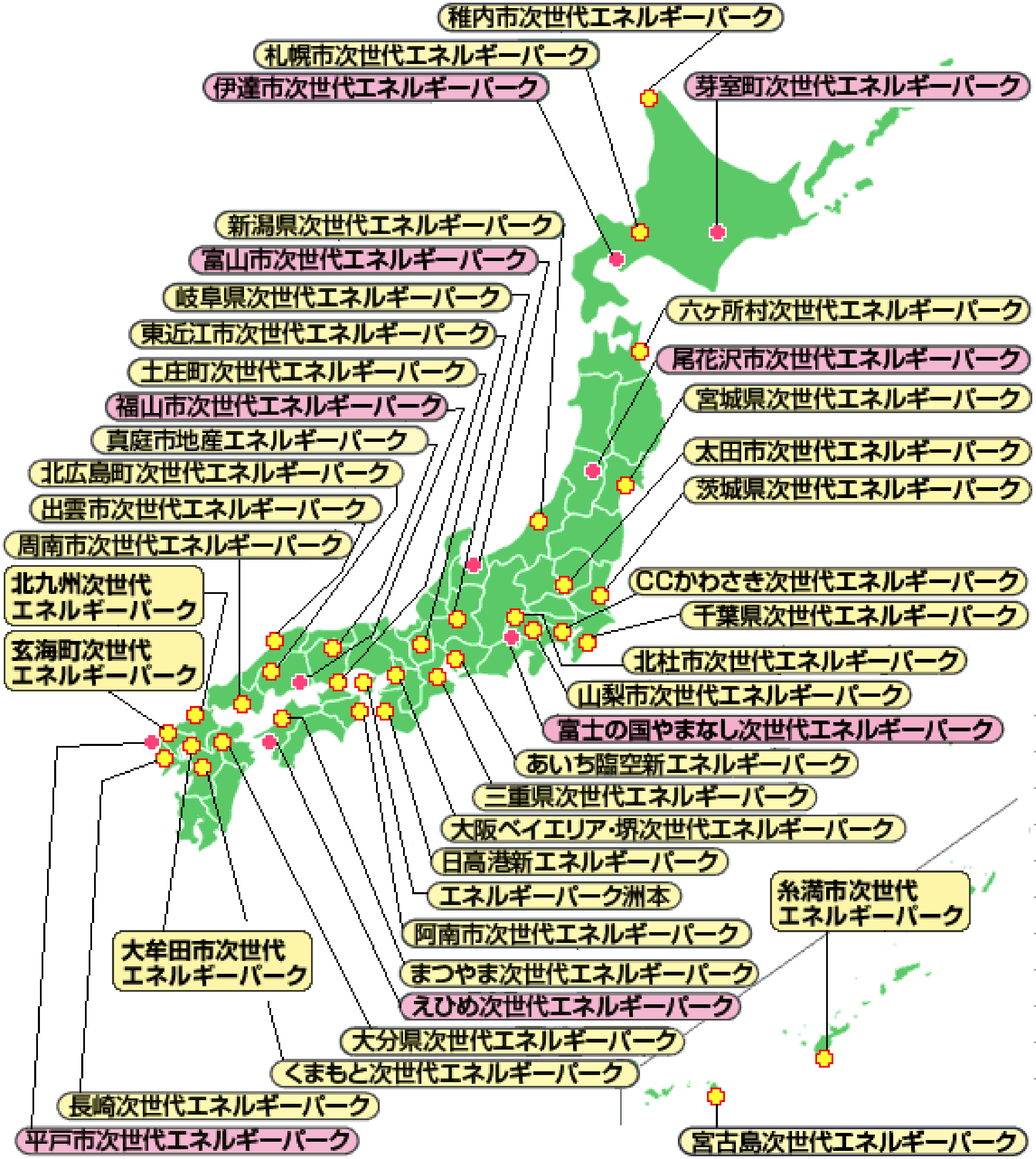
【次世代エネルギーパークの例】

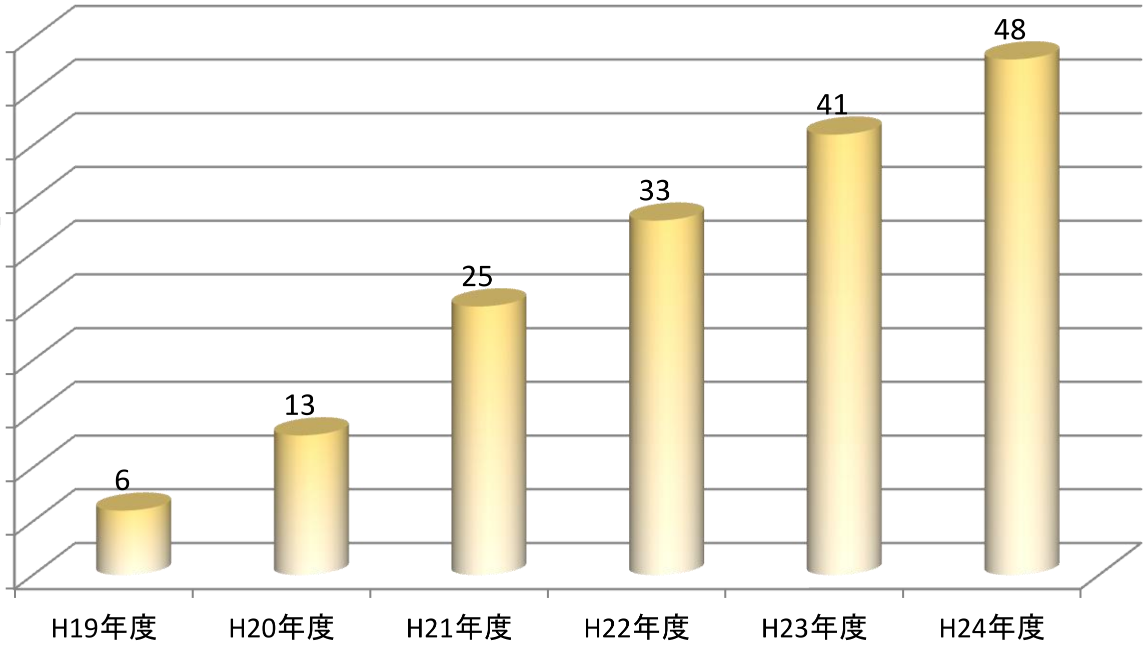
①拠点集中型（日高港新エネルギーパーク）

②広域連携型（三重次世代エネルギーパーク）

平成２３年度までのエネパ認定案件と支援方針

【平成２３年度までのエネパ認定地域（４１件）】



- エネパは、毎年度公募を行い、エネルギーや観光分野の専門家によって構成される外部委員会によって審査。平成２３年度までに、全国４１計画を認定。
- 経済産業省では、ホームページ等様々な媒体を通じた情報発信等を通じ、その利用促進を支援。
- ２４年度は特に、札幌市、福島県、川崎市、山梨市、北九州市の全国５箇所においてエネパと地域の観光を結びつけたモニターツアーを実施。再エネを名脇役とした教育・学習資源としてのエネパの活用促進に力を入れているところ。

次世代エネルギーパークの認定件数（累計）